インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.226

2024年３月15日

発行所　兵庫教育文化研究所
〒650-0004
神戸市中央区中山手通4-10-8

詩をゆたかに味わい、主体的に国語の授業に臨む子どもたちをめざして

日本語教育部会授業研究会

日本語教育部会は“ すべての子どもたちをすぐれた日本語の担い手にする”ことを心の真ん中に置き、常に実践の方法を模索し、「ことばの力」をつけることによって、すべての子どもに学びの保障をすることに最大限とりくんできました。新型コロナウイルス感染症の流行により、研究活動も大きな影響を受けてきましたが、昨年12月に稲美町で久しぶりの授業研究会をおこないました。

今回は、まど・みちおさんの「イナゴ」という詩を題材に、６年生で授業をおこないました。この授業では、「詩を味わい情景や場面の様子をゆたかに読み取ること」と「主体的に詩の読み取りにむかう態度をはぐくむこと」の両立をめざして授業を計画しました。

まず授業に先立ち、子どもたちは詩を読み、気づいたことや疑問に感じたことをワークシートに書きこみました。そのワークシートをもとに指導者が疑問を整理し、次の３つに集約しました。

①「・・・・・・」に省略された言葉は何か。
②「強い」、「よわい」生きものとは何か。
③「イネのにおい！」の「！」はなぜついているのか。

本時では、「詩の言葉や表現から想像を広げることができる」、「課題の解決のしかたを考えて、時間いっぱいとりくむことができる」の２つのねらいを説明し、この授業で育てたい力を明確に示しました。それから、イナゴを見たことのないという子どももいたので、初めにイナゴという生きものについて基本的な知識を説明しました。写真を掲示しながらその体長や生態を話したり、「蝗」、「稲子」という漢字から稲を食い荒らす存在であるとともに、人間もイナゴを食用にしてきたという歴史について話したりしました。作者についても簡単に紹介したことで、作品をより身近に感じたようでした。その後、第一連の言葉から「ぼく」とイナゴの位置関係をおさえました。

次に、子どもたちが発見した「３つの疑問」について、まず自分で考えた後に班で話し合いました。子どもたちは、比喩・対比・省略・反復など、これまでに学んだ詩の技法を生かして読もうとしていました。また、「…しか～ない」などの詩中の言葉に注目し、考えの根拠としながら話し合いをすすめていく姿が見られました。子どもたちはねらいを意識し、学んできたことを生かして活動にとりくんでいました。

そして、全体で読み取ったことを交流しました。話し合いによって、「・・・・・」の表現からは、大きな人間にひるむことなく逃げようとし続けている姿を読み取ることができました。また、「強い」、「よわい」という漢字とひらがなによる表現のちがいから、お互いの間にある大きな隔たりがいっそう感じられることがわかりました。最後の「！」まではたどり着くことはできませんでしたが、子どもたちの感想では、既習の内容を生かしてねらいを達成できたことへの満足感が伝わってきました。

授業後の研究協議では、よりゆたかに詩を味わうための手立てについて話し合いました。「音読を最後におこなうことで、読み取ってきたことを胸にしみこませることができるのではないか」、「場面が夏か秋かを問うことで、作品のイメージが変わるのではないか」などの指摘があり、この授業をさらに深める問いや考えが多く生まれました。そして、主体的に生き生きと国語の学習に臨むことができる可能性を感じることができました。

これからも“ すべての子どもたちをすぐれた日本語の担い手にする”　という大テーマの具現化をめざした教育（授業）実践のあり方を模索していきたいと考えています。

（本授業の授業案は「組合員専用ページ」⇒「各部会研究授業 指導案等」に掲載しています。ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください。）

★兵教組HP 組合員専用ページ⇒